



芝小だより

第四月号特別号二

「ナウマンゾウー浜町標本」

校長 齋藤 幸之介

皆さん、お元気ですか。色々と工夫をして生活していると思います。今回は、前回予告をした「化石」のお話の続きをしたいと思っています。ゾウのお話です。

「都営新宿線の工事中に」

皆さんは都営新宿線を知っていますか。新宿駅から千葉県市川市の本八幡駅までの長さがいよいよ、五キロメートルの地下鉄です。新宿からは京王新線、そして京王線に続いており、八王子、高尾山口などにも直接行くことが出来る便利な鉄道です。

都営新宿線はその一部が一九七八年に開通しましたが、このお話はまだ工事をして

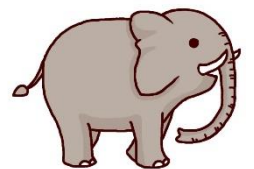
発行所 港区立芝小学校
〒105-0014
港区芝 2-21-3
[TEL:03-3456-3072](tel:03-3456-3072)
FAX:03-3456-3071

いた一九七六年のことです。

この年、工事が一時中止になりました。今の浜町駅の近くで化石が発見されたからです。ちなみに、工事中に化石が発見されると工事が中止になることがあるのです。

これは「ナウマンゾウ」の化石でした。五日間調査を進めると、化石はおおよそ百点発掘されました。これは、ゾウ三頭分にあたりました。この発掘により、小型のゾウが復元されました。頭と体がそろった完全な標本としては初めてのものだったそうです。年齢は四〇歳代のメス、肩の高さがおおよそ一、九メートルの小柄でずんぐりしたゾウでした。浜町で見つかったので、「浜町標本」と言われています。

ナウマンゾウは、今から三十万年ほど前に



九州から北海道にいたる広い地域に住んでいたと言われています。東京でも、浜町のほかに二〇か所で発見されています。その後一万年数千年前まで生きていたとされます。その他、マンモス、ステゴドンゾウなど、世界のいくつかの地域に住むゾウが日本にいました。今日日本でゾウを見たいと思ったら動物園に行くしかないでしょう。しかし、化石が発掘されたということは、昔は日本にも住んでいた、ということになりますね。世界の別の場所から日本にやってきた、ということになるのでしょうか。いや、地図を見てもうと分かりませんが、日本は海に囲まれています。ゾウが海を泳いできた？それとも？



「大陸移動説」

実は、昔日本はオセアニア大陸、例えば中国や朝鮮半島などとつながっていた、という説があります。このことは「大陸移動説」という考えにつながっています。

世界は、「オセアニア」「アフリカ」「ヨーロッパ」「南アメリカ」「北アメリカ」と「南極」の大陸に分かれています。しかし、実は今はこうして分かれている大陸も、昔は一つの大きな大陸であった、ということなのです。これがいくつかに分かれて移動し、今のようになった、という説なのです。

この説を述べたのは、アルフレッド・ローランド・ウェゲナーという学者でした。ウェゲナーは、今の大陸を見てもパズルのように形がうまくはまるというところがあったり、海が間に



あって離れている場所から同じ化石が見つかったりしていることから、昔はきつとつながっていたに違いない、と考えたわけです。この説は一度受け入れられなくなりました。しかし、大陸の下にある「マントル」という、実は動いている部分によって大陸が動いているということが改めて認められたのです。

少し話がそれますが、大陸移動説は、以前五年生の国語科の教材文「大陸は動く」として載っていました。私は、子供たちと学習を進めながらわくわくしていたことを今でも覚えています。

大陸移動説については、例えばNHK for schoolで観ることもできます。
http://www2.nhk.or.jp/school/movie/clip.cgi?das_id=DD0005400838_000000&p=box



私たちが住んでいる地球の昔をたどっていくと、今では考えられないことが起きています。その理由の一つは、多分、変わるということがとてもゆっくりだからです。しかし、ものすごく長い時間がかかっていることが分かるよ、「ひょっとすると」「そうかもしれない」「そして「なるほど」と思うことがあるのかもしれないね。

前回紹介したアキシマクシラや浜町標本は地球の歴史を伝えてくれる素晴らしい化石でした。特に、これらが東京で見つかったことに私はとてもワクワクしたのです。皆さんはいかがでしょう。皆さんにも、ぜひ「東京」を探ってもらえたら、と願っています。